

## 島根県三瓶山で確認されたキオビホオナガスズメバチ本州亜種について

皆木 宏明\*

### A Record of *Dolichovespula media sugare* Ishikawa from Mt. Sanbe, Shimane Prefecture, Japan

Kohmei Minagi

#### 1. はじめに

キオビホオナガスズメバチ *Dolichovespula media* (Retzius) は、国内では北海道と本州に分布する北方系のスズメバチである。本種の体長は女王バチが19-22mm、働きバチが14-19mm、オスバチが19mm前後で、巣房を樹幹の小枝にぶら下げる。スズメバチ類のなかでは、コロニーのサイズは最小である。年1化性で、秋期に次世代の女王バチとオスバチが交尾し、受精後に女王だけが朽木などに穿孔して越冬する。女王バチは働きバチと大きさや体の模様が大きく異なり、キイロスズメバチに擬態しているとされ、本州中部以北の山岳地帯では個体数は少なくないとされる(松浦・山根, 1984)。

国内ではキオビホオナガスズメバチは北海道及び旧北区北部に生息する基亜種 *D. m. media* (Retzius) と本州亜種 *D. m. sugare* Ishikawa の2亜種に分けられるが、西日本では記録が少なく、特に中国地方は分布南西限にあたる。そのため、キオビホオナガスズメバチ本州亜種は環境省レッドリスト ([http://www.env.go.jp/press/file\\_view.php?serial=21555&hou\\_id=15619](http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=21555&hou_id=15619)) では情報不足、島根県レッドデータブックでは準絶滅危惧種に指定されている(環境省, 2012; 島根県, 2004)。

県内での本種の確認記録はこれまで、大万木山(飯南町)と安蔵寺山、川本町田水の3ヶ所とわずかしかない(前田・手塚, 1995; 前田ほか, 2002; 山本, 2006)。今回、新たに島根県大田市にある三瓶山にて本種の営巣を確認したので報告する。

#### 2. 確認場所

確認場所は、三瓶山の主峰男三瓶山(標高1,126m)北斜面に延びる名号コースと呼ばれる登山道沿いの林内で、三瓶自然館のフィールド管理を行うスタッフが2013年9月26日に登山道整備作業中にスズメバチの巣1個を確認した(図1)。登山者への安全を確保するためハチを駆除したが、普段見るスズメバチの巣と色や形状が異なっていたため、スタッフが館へ巣を持ち帰り、筆者が本種と確認した。巣(図2)は直径タテ約25cm、ヨコ約20cm、巢内にハチが残っていないか内部を崩してみたところ、内部からキオビホオナガスズメバチのオスバチ1個体を採集した。追加記録を得るため、翌27日に筆者が現地にて巣があった付近を飛び交っていた本種の新女王と思われるハチ3個体(図3)を採集した。



図1 キオビホオナガスズメバチの営巣環境

\* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan



図2 キオビホオナガスズメバチの巣



図3 キオビホオナガスズメバチ(左:女王 右:オスバチ)

確認場所：鳥根県大田市三瓶町 男三瓶山登山道  
(名号コース)

標高：約850m

確認年月日：2013年9月26-27日

同定者：皆木宏明

巣は、ミズナラ *Quercus crispula* の幹に巻きついたイワガラミ *Schizophragma hydrangeoides* の蔓と葉数枚が巣と融合するような形でぶらさがっており、

地上高約180 cmの位置に作られていた。本種の活動期間は7月～9月とされ(松浦・山根, 1984), 今回複数の女王バチとオスバチが採集されたことから、活動末期の巣と思われる。

巣の確認された三瓶山の北麓の林は、三瓶山自然林として国の天然記念物にも指定されている自然豊かな森林が残された場所である。本種は標高が高く、自然度の高い森林に生息するとされ、これまでの記録も中国地方では中国山地を中心に上述のような環境で確認されていることが多い(前田ほか, 2002; 近藤, 1999; 岡田・佐藤, 2010; 松井, 2012, 2013)。今回の三瓶山での確認も同様の環境での記録であり、三瓶山の自然環境の豊かさを示す指標の1つになると思われる。

## 引用文献

- 近藤光宏(1999) キオビホオナガスズメバチの採集記録. すずむし, 134, p25.
- 前田泰生・手塚俊行(1995) キオビホオナガスズメバチの新分布地. 中国昆虫, 9, p31.
- 前田泰生・郷原匡史・郷右近勝夫(2002) 中国地方における有刺類4種の分布新記録. 中国昆虫, 15, 39-43.
- 松井悠樹(2012) キオビホオナガスズメバチのオスを氷ノ山で採集. ゆらぎあ(30), 22.
- 松井悠樹(2013) 鳥取県におけるスズメバチ3種の記録. ゆらぎあ(31), 37-38.
- 松浦 誠・山根正気(1984) スズメバチ類の比較行動学. 北海道大学出版会. 428pp.
- 岡田珠美・佐藤隆士(2010) 氷ノ山(鳥取県若桜町)からのキオビホオナガスズメバチ *Dolichovespula media sugare* の営巣の発見. 山陰自然史研究, 5, 83-84.
- 鳥根県(2004) 改訂しまねレッドデータブック～鳥根県の絶滅のおそれのある野生動植物～. 鳥根県. 415pp.
- 山本正志(2006) キオビホオナガスズメバチを鳥根県川本町で確認. すかしば, 54, 59-60.